

特別講演

Three Births of Life (人生における3つの誕生)

— 「『あなたは大切な存在です』と伝えるための哲学・技術・科学」 —

イヴ・ジネスト (ジネスト・マレスコッティ研究所所長、静岡大学客員教授)

ユマニチュードは、病院・介護施設でのケアの実践の中から生まれたケアの技法です。ケアの対象は新生児から高齢者まで幅広い年代にわたり、「ケアをする人とは何か」「人とは何か」という命題を対人援助において考え、実践します。

人は、まず生物学的な誕生を迎え、帰属する家族や社会に迎え入れられる社会的な誕生を迎えます。これをユマニチュードでは、それぞれ「第一の誕生」「第二の誕生」と呼んでいます。

第二の誕生、すなわち周囲の大人から「あなたは人間です」「あなたは大切な存在なのです」という愛情に満ちた療育環境を与えられなかった子どもに生じる典型的な例は、チャウシェスク政権崩壊後のルーマニアの孤児院で発見され世界を震撼させた孤児のアタッチメント(愛着)障害に伴うさまざまな症状です。

この子どもたちに生じた変化は、ごく普通の生活を送っていた高齢者が、認知機能の低下やその他の脆弱な状況に陥り、周囲の援助なしでは生活できなくなったときに再び重要な意味を持ちます。このような高齢者は、

周囲とのコミュニケーションを断ち、ケアを行う人も「仕方ない」とあきらめてしまいがちになります。しかし、ここに重大な問題が生じているのです。ケアを行う人は、たとえ相手を大切に思っているとしても、相手にそれが分かる形でその気持ちを出さなければ、ルーマニアの孤児院で発見された子どもの状況と変わらない、ということに無自覚なのです。

ルーマニアの孤児たちが、引き取られ、愛情豊かな生育環境のなかで、過ごすことでどのような変化を遂げるかを検証したブカレスト初期療育プロジェクトが、第二の誕生を迎えることの重要性を示したように、ケアを行う人が「あなたは大切な存在なのだ」と相手に理解できる形で伝え続ける技術を身につけることができれば、多くの認知症高齢者と再び豊かなコミュニケーションを双方向的に行うことができるようになるのです。これを私は「第三の誕生」と呼んでいます。

今回の講演では、人の「第一の誕生」「第二の誕生」「第三の誕生」について、その哲学、それぞれの誕生を促すために必要なコミュニケーションの技術と、その技術がもたらす変化についての考察を行いました。

〈プロフィール〉

Yves GINESTE

ジネスト・マレスコッティ研究所所長、静岡大学客員教授。トゥールーズ大学卒業。体育学の教師で、1979年にフランス文部省から病院職員教育担当者として派遣され、病院職員の腰痛対策に取り組んだことを契機に、看護・介護の分野にかかわることとなった。ロゼット・マレスコッティとともに開発した包括的ケア技法ユマニチュードは、フランスを始めとするヨーロッパ各国の介護施設や病院で広く導入されている。2012年に初来日。日本の医療・介護・教育の現場においての実践が始まっている。

